

2024 年度 第 1 回 脱炭素コンクリート技術研究協議会(S 協議会)

議事録(案)

議事録担当:坂本(広島工業大学)

- 日時:2024 年 8 月 20 日(火), 10:30~12:00
- 場所:近未来コンクリート研究会会議室, Zoom ミーティング
(広島市中区東千田町 2-3-26 福德技研株式会社 3F)
- 出席者:17 名(別紙 1 参照)

■S 協議会議事録

1. 前回議事録の確認

2024 年度第 3 回 S 協議会(2024 年 3 月 15 日)の議事録確認を行った。

2. 第 6 回総会(2024 年 6 月 10 日)での S 協議会中間報告について

- ・第 6 回総会の資料とパワーポイントの概略を説明した。
 - 今年度も S 協議会として継続して活動を行う。
 - 協議会メンバーからの積極的な話題提供・情報提供をお願いしたい。

3. 情報提供:北陸地方の FA コンクリートの利用状況【坂田様】

- ・監督職員が選択して発注している。
 - 福井県では,モデル工事の場合,高炉セメント B 種と FA セメントでコンクリートの価格差はない。
 - モデル工事以外の物件では,地域によって差があるが,500~2,100 円の割増がある。
- ・北陸地方のコンクリートの使用量が減少している。
 - 全国的にセメント使用量の減少傾向が続いており,2022 年度からは 5%減少が続いている。
 - 北陸地方では,上記と併せて新幹線による特需が終わったことが原因と考えられる。

4. 情報提供:カーボンニュートラルの動向

- ・「CN は地球全体の問題」コンクリート新聞
 - コンクリート・セメント産業の CN の実現に向けて取り組むべきことは,「脱化石燃料」,「CO₂の貯留や再利用」,「樹木や海洋による CO₂の固定」が挙げられる。
- ・「JIS 化で脱炭素コンクリート元年」日経コンストラクション
 - 政府は脱炭素技術への民間投資の呼び水とする「先行 5 年アクションプラン」を推進していく。
 - 日本コンクリート工学会は,2024 年に脱炭素コンクリートの JIS 制定に取り組む。
- ・「低炭素コンクリートを使いやすく 国交省が規制の見直しに着手」日経アーキテクチ

ユア

→国土交通省は、環境配慮型コンクリートの建築物への導入を促すため、建築基準法 20 条に基づく大臣認定取得のプロセスの合理化などを検討している。

・「分野別投資戦略について②」 内閣官房 GX 実行推進室

→セメント分野では、サーマルリサイクルボイラーへの設備投資、カーボンリサイクル製造の技術開発・設備投資、CO₂を用いたコンクリート等製造技術開発、省エネ補助金等による投資促進などを、政府と民間が協力して進めていく。

5. 情報共有:FA の少量使用一般化の提案のための実験 Step2 の実験結果【城国様】

・FA に関する Step0 から Step 2 の実験結果の取りまとめについて情報共有を行った。

→Step0:FA 少量使用のモルタルによる確認実験, Step1:FA の少量使用がコンクリートの品質に及ぼす影響の確認実験, Step2:FA の合理的使用方法に関する検討実験

・次の段階として、発注者側へのアピール方法を検討する必要がある。

→国が動かなければ、地方整備局や県は動きにくいので、全国版のメディアにアピールすると良いのではないかと。

6. その他

・次回は 2024 年 12 月 16 日(月), 次々回は 2025 年 2 月 13 日(木)に開催予定

→協議会の順番などは改めて連絡する。

以上

8/20 脱炭素コンクリート技術研究協議会(S協議会)参加者名簿

番号	所属組織(団体)	参加者(敬称略)
1	近未来コンクリート研究会 代表	十河 茂幸
2	(一社)広島県土木協会	甲斐 英樹
3	(一社)広島県土木協会	奈良原 友貴
4	(一社)広島県土木協会	下野 聖也
5	福井県丹南土木事務所	坂田 正宏
6	前橋工科大学 客員教授	君島 健之
7	日鉄高炉セメント株式会社	平本 真也
8	三豊産業有限公司	竹内 弓恵
9	株式会社フローリック	太田 大望
10	ウベコン浜田株式会社	河野 栄治
11	(一社)日本建設業連合会	田村 吉広
12	株式会社北川鉄工所	勝部 英一
13	株式会社田中組	田中 智毅
14	株式会社建設技術研究所	光川 直宏
15	広島地区生コンクリート協同組合共同試験場	城國 省二
16	コンクリートメンテナンス協会 技術委員長	江良 和徳
17	広島工業大学 S協議会主査	坂本 英輔